

# 論壇

## 広い視野で本業以外経験

先日、カリフォルニアのシリコンバレーにあるグーグルの本社を訪問する機会があった。キャンパスと呼ばれるオフィスは、まさに大学のキャンパスのようであり、自由な発想が出てきそうな雰囲気であふれていた。職員の食事は全て無料で提供されており、うらやましいような職場環境であった。そこで聞いたことで印象に残っているのが、20%ルールというものだ。仕事時間のうち、20%程度は、自分の主たる仕事とは別のことをするようにというルールだ。

伊藤 元重 学習院大教授(国際経済学)

ただでさえ手持ちの仕事で忙しいのに、それ以外に20%も他の仕事をするのかと思う人もいるだろうが、手持ちの仕事も20%減らしても良いので、その残りの時間で他のプロジェクトに参加しなさいということだ。

グーグルのような世界では、世

見ることになるかもしれない。自分の本業以外の仕事を経験することは、将来の自分の発展の方向に示唆を与えるかもしれない。また、他の分野の人と協力してプロジェクトを遂行すれば、新たな学びの機会にもなるかもしれない。グーグルの20%のルールは、

## グーグルの20%ルール

の中で起きているいろいろなことに関心をもち、視野を広めることが重要である。本業はAI(人工知能)のプログラミングの仕事をしていても、その知識を生かして貧困問題や環境問題のプロジェクトに関わるのだ。それによって、AIの利用についてより広い視野から

私たちの日常の生活にも役に立つ考え方となるはずだ。私たちは自分の仕事や生活に振り回されがちだ。しかし、それでは視野は広がらないし、燃え尽きてしまうこともある。1日1時間でもよいし、1カ月に1日でもよいので、普段やっていることとは別のことにチ

ヤレンジすべきた。

## 自分の生活考える時間を

世の中はめまぐるしいスピードで変化している。そうした時代だからこそ、多面的な視野を持ち、変化に対応できる柔軟な思考が求められる。若い人には、今後それが特に重要になるだろう。学校でも職場でも、こうした20%ルールを導入して、若い人に多様な経験をしてもらおうようにすべきだろう。それは結果的には、教育の成果を高め、企業の業績を高めることになる。

20%ルールとは少し違ったものかもしれないが、私自身も似たような生活スタイルを実行しようとしている。もう10年以上にもなる

が、どんなに忙しくても、1日20分か30分、自分の生活についてゆっくりと考える時間を持つことにしている。そこでは自分の仕事について考えることが多いが、この時間が非常に貴重である。

自分の生活について静かに考える時間を持たないと、忙しい中で仕事に流される生活となってしまう。仕事に真面目に取り組みすぎ、仕事について何も考えていないということになる。時々立ち止まって、静かに考える時間が必要であるのだ。これはどのような仕事にも人にも当てはまるはずだ。1日10分でもよいので、何もしない時間をつくって、自分の生活について見直すことができれば、そこから貴重な発見があるはずだ。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。